



= 新運営委員長から =

2004年11月、運営委員長が、最首悟さんから、西山哲也さんに代わりました。西山さんからのごあいさつです。

「珈琲工場&百屋」でハンディある人たちと一緒に働き始めて、この4月で丸11年となります。「珈琲工場&百屋」は、株式会社世織書房が経営するコーヒー豆と自然食品の店で、コーヒー豆を煎るのがぼくの主な仕事です。



お店には、月曜日から土曜日までの毎日、ハンディあるスタッフが日替わりで働きに来てくれています。月曜日はAさん、火曜日はBさん・・・といった具合です。ここに勤めるまでハンディある人たちとの関わりはほとんどありませんでしたが、この間、様々な個性の持ち主と、マンツーマンに近い形で仕事をさせてもらってきました。

9年前この活動のなかから「作業所を立ち上げよう」ということになってからは、準備委員、運営委員として「カブカブ」に関わらせていただいています。

何かと思い入れのある「カブカブ」です。出すぎず、引きすぎず、委員長として勤めていきたいと思っています。(運営委員長 西山哲也)



副委員長も伊藤晶宣さんから、石井将隆さんに代わりました。石井さんは、世田谷区にある作業所職員で、やはりカブカブの準備から関わってきました。

最首さんと伊藤さんは、これからも運営委員としてカブカブを支えます。

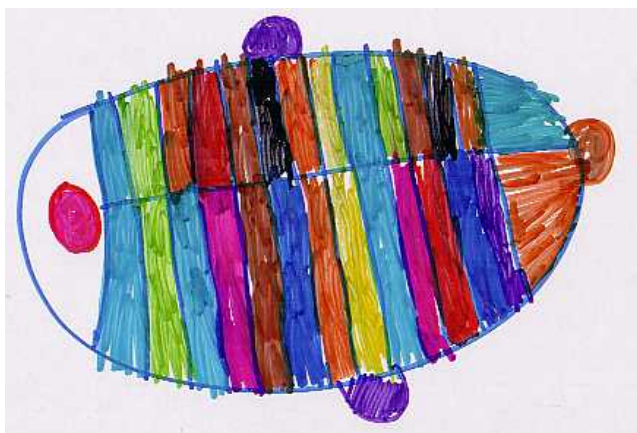


新会員募集と継続加入のお願い

FHSネットカブカブでは、地域作業所カブカブとカブカブ竹山の運営を応援するために、広く会員を募集しています。

年会費一口1000円、一口以上何口でも結構です。

郵便振替
00290-2-36249 FHSネットカブカブ



© 富田のぞみ

昨年までは、作業所の通信として発行していましたが、今年は後援会の発行としました。作業所職員のカバーする領域は広範で多岐にわたります。後援会は、その周りでできることを一緒にやってみようかなという人を待ってます。

編集・発行
FHSネットカブカブ事務局 (代表 三島賢治)
〒241-0001
横浜市旭区上白根町891 地域作業所カブカブ内
e-mail mkenzy@jt9.so-net.ne.jp
&FAX 045-953-6666

- 地域作業所カブカブとカブカブ竹山の後援会「FHSネットカブカブ」の通信です。

コラムボンはカブカブわらったよ



© 渡辺鮎彦

創刊号 2005年3月10日発行

- 地域作業所カブカブ
1997年4月開所。横浜市旭区ひかりが丘団地にあります。約15人のメンバーで、喫茶、クッキー等製菓と他作業所製品、リサイクル品販売、軽作業等を行っています。
近所のひかりが丘地域ケアプラザ内の喫茶コーナーも営業しています。
横浜市旭区上白根町891
ひかりが丘団地商店街内
&FAX 045-953-6666

- 地域作業所カブカブ竹山
2002年4月に横浜市緑区竹山団地中央商店街にopenしました。喫茶とギャラリー、アート工房で約15人がはたらいています。新製品はカレードッグです。
横浜市緑区竹山3-1-8 竹山中央商店街内
&FAX 045-934-6668



= カブカブの周りから（ひかりが丘） =
ひかりが丘地域ケアプラザの陶芸を担当することになり、ケアプラザの瀬崎所長さんから「カブカブのみんなも陶芸に興味あるみたいだから、朝から来てやってみない?」とお声を掛けていただいた事がみんなとの出会いのきっかけでした。

はじめは、どんな方達なんだろう?とか、何をついたら喜んでもらえるんだろう?など考えたり、わたしも緊張していましたが、後になってわかった事です、メンバーのみんなのほうが私よりも数倍緊張していたようです。

回を重ねるたびに、参加人数が増えてきて、1回目は3人からはじまった陶芸教室ですが、最終回は6人に増えていました!

制作中のおしゃべりや、歌を一緒にくちずさんだりとても、和やかにのんびり流れる時間をみんなで楽しむようになりました。

ある日、教室後にカブカブさんと珈琲を頂いている時に、アルバイトの原田由美子さんに、「各週の陶芸を愉しみにみんなは、きてくれているんだよ。」と伺い、とてもうれしかったです。

ひとりひとり、個性があり、得意なことがあって、晴れている日も曇っている日もあって、メンバーのみんなと接していると、大げさな表現かもしれませんが、自分が世の中の様々な流れに押し流されてわす



© 川崎佐和子



れてしまったきもちを思い出させてくれるように感じました。

陶芸を通じて、わたしが勉強させていただいた気がします。

みんなとめぐり会えた事を神様に感謝しています。
(陶芸教室講師 平野祐子)



© みこ

= カブカブの周りから（竹山） =
たけまちフェスタ「ひょうげん デ ときめく」
～つどう・あそぶ・つむぐ～

今年で2回目の開催となった、たけまちフェスタ。前年のフェスタを上回る盛り上がりをも合言葉に、私たちは、今回のイベントに向けて二つのことを考えました。ひとつは、見に来ていただいた方々を巻き込んで、みんなでひょうげん(ステージ参加)すること。もうひとつは、このイベント前に、いくつかのイベント(写真展、アートワークショップ)を行い、ステージイベントはその集大成にしようということでした。



© 原橋邦明

当日はうす曇りの肌寒い陽気でしたが、地域の方、イベント出演団体など総勢200名を超える人達に集まっていただきました。オープニングは、太鼓の勇壮な響きに合わせた蛇の踊り。蛇はカラフルにペイントされた長い布です。この布は、夏にカブカブ竹山で行ったアートワークショップで、障害児者が力を合わせて描いたもの。蛇踊りの担ぎ手も、当日会場にみえた方々に飛び入りで参加していただきました。太鼓の演奏、フラダンス、ソーラン節、それぞれの演技に、観客が次々に飛び入り参加し、盛り上がっていききました。そして、クライマックスは、ステージに集った全員で行った、バルーンのパフォーマンス。会場の竹山南幼稚園の先生の音頭で、音楽にあわせてバルーンが大きく膨らんだり、しぼんだり。幼稚園児から、おじさんおばさんまで、みんなでバルーンを操作しました。鴨居中学吹奏楽部の演奏では、マイク片手に参加者のカラオケや、即席指揮者も誕生して、みんなが本当に楽しみました!

前回に引き続き、大いに盛り上がった、たけまちフェスタステージイベント。これも、ここにつどう人達のエネルギーのなせる業?来年の心配?…ひとびとがこの竹山に集う限り、このパワーが衰えることはありません!?

(たけまちフェスタ実行委員 悪原義範)

